

 足利ホールディングス

 足利銀行

# 2011 ASHIKAGA HOLDINGS ASHIKAGA BANK DISCLOSURE

足利ホールディングス 足利銀行 中間期ミニディスクロージャー誌 2011年（23年9月期）



皆さまには、平素より弊社ならびに足利銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当中間期の経済環境は、東日本大震災の影響から厳しい状況にあるものの、サプライチェーンの立て直しにより、持ち直しの動きが見られました。

このような環境のもと、弊社グループは、地域における円滑な金融仲介機能の発揮やお客さまのニーズに応じた金融サービスの提供に努めてまいりました。

平成23年度上期は、災害関連保証制度の活用など、事業性貸出の円滑な資金供給に努めたほか、住宅ローンの金利優遇を拡充したこと等により、貸出金残高（銀行単体）が前年同期末比730億円増加の3兆4,292億円（銀行単体）となりましたほか、要管理先以上の法人融資先数も20,748先に増加いたしました。

預金等残高（銀行単体）につきましても、個人・法人の増加等により、前年同期末比1,910億円増加の4兆6,734億円となりました。

その他、地域経済活性化や震災復興に向けた取組みとして、商談会の開催や栃木県の観光支援への協力、栃木県への放射線測定装置の寄贈等を行いました。

こうした取組みに加え、債券売却益の計上や与信関係費用の改善もあり、平成23年9月期の弊社連結ベースの中間純利益は106億円となりました。

経済環境は、震災や円高のほか、欧州の債務問題等もあり、予断を許さない状況が続いておりますが、引き続き、中期経営計画に基づき、地域のトップバンクとしての磐石な体制の構築と東京証券取引所への上場を目指し、「お客さまのお取引基盤の拡大」「経営体制の強化」「あしぎんブランドの構築」に取組んでまいります。

なお、足利銀行の基幹系システムにつきましては、NTTデータ地銀共同センターの新システムに移行し、平成23年7月19日より稼働を開始いたしました。今後、この新システムを基盤として、安定性・信頼性の充実をはかるとともに、お客さまの幅広いニーズにお応えできるよう、より一層のサービス向上に努めてまいります。

地域のお客さまと足利銀行をはじめ弊社グループ相互の発展に向け、役職員一同、全力を尽くしてまいりますので、皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援とご愛顧をたまわりますようお願い申し上げます。

平成23年12月

株式会社足利ホールディングス 代表執行役社長  
株式会社足利銀行 代表執行役頭取

藤澤 智

## プロフィール

(平成23年9月30日現在)

### ● 足利ホールディングス

商号 … 株式会社足利ホールディングス  
代表者 … 代表執行役社長 藤澤 智  
設立年月日 … 平成20年4月1日  
資本金 … 1,050億1,000万円  
本社所在地 … 栃木県宇都宮市桜4丁目1番25号（足利銀行本店内）

### ● 足利銀行

商号 … 株式会社足利銀行  
代表者 … 代表執行役頭取 藤澤 智  
創業 … 明治28年10月1日  
資本金 … 1,350億円  
足利ホールディングスの100%子会社  
職員数 … 2,810名  
本店 … 栃木県宇都宮市桜4丁目1番25号

◆ 足利銀行は明治28年10月に栃木県足利市で創業、その後、業容の拡大とともに、昭和42年2月に北関東の中核都市である宇都宮市に本店を移転いたしました。

# 経営方針

## 企業理念

“企業理念”は、足利ホールディングスおよび足利銀行のすべての行動の原点となる考え方を示したもので、「存在意義」「経営姿勢」「行動規準」から構成されています。

わたしたちは、この企業理念のもとで地域の総合金融機関として、地域社会とお客さまの信頼と期待にお応えできるようにつとめております。

### 〇 存在意義

#### 【豊かさの創造に寄与する】

足利銀行は、地域の総合金融機関として、地域社会のすべての人々の豊かさの創造に寄与しつづけます。

### 〇 経営姿勢

#### 【地域と共に生きる】

足利銀行は、お客様本位の精神のもとに、地域と共に生きる開かれた銀行として積極的で健全な経営をすすめます。

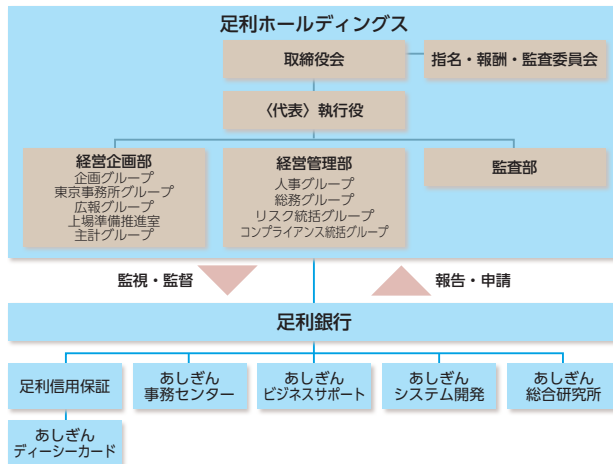
### 〇 行動規準

#### 【誇りと喜びをもって行動する】

わたしたちは、自らの使命・役割をよく理解し、たえず自分を磨き、高め、誇りと喜びのある行動によって、人々の期待と信頼に応えます。

## 経営体制

企画機能を統括する経営企画部門、管理機能を統括する経営管理部門、内部監査を統括する監査部門を設置し、足利銀行の関連部門と密接に連携しながら経営の適正な管理・モニタリングを行っております。



## 中期経営計画

### 新あしぎん創造プロジェクト

地域とともに新たな成長のステージへ

計画期間：平成21年4月～平成25年3月

足利ホールディングスおよび足利銀行は、中期経営計画で示した施策の着実な実行をとおして、お客さま、株主、地域社会、従業員等すべてのステークホルダーからの高い信頼を獲得しつづけて、持続的な企業価値の向上につとめてまいります。

### 【目指すべき銀行像】

- ◆お客さまに信頼され、頼りにされる銀行
- ◆持続的な地域経済の発展に貢献する銀行
- ◆強靱な経営体質をもった銀行

地域に密着した総合金融  
サービス業の実現を目指す

### 【中期経営計画の基本的考え方】

栃木県において当行の  
マザーマーケットとしての基盤構築

- ◆地域銀行として関わるあらゆる分野で磐石な基盤を構築
- ◆預金、貸出等のシェアを高め、安定した収益を確保

当行と縁のある外周部を重点地域として  
貸出を主力に取引基盤を回復

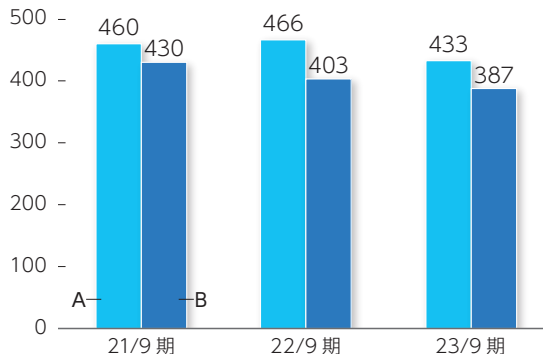
- ◆顧客認知度（一定のシェア・店舗の歴史等）という強みを活かし、人員・店舗ネットワークを増強

# 主要な計数指標 (足利銀行単体)

## 業務粗利益

A 業務粗利益 B コア業務粗利益

(億円)

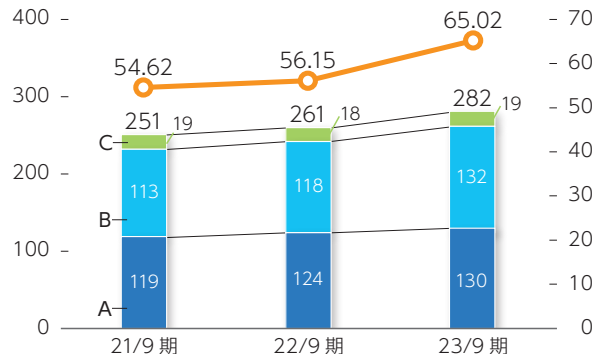


業務粗利益は、貸出金利回りの低下による資金利益の減少と国債等債券損益の減少を主因として、前年同期比△32億円の433億円、コア業務粗利益は同比△15億円の387億円となりました。

## 経費・OHR

A 人件費 B 物件費 C 税金 OHR

(億円)

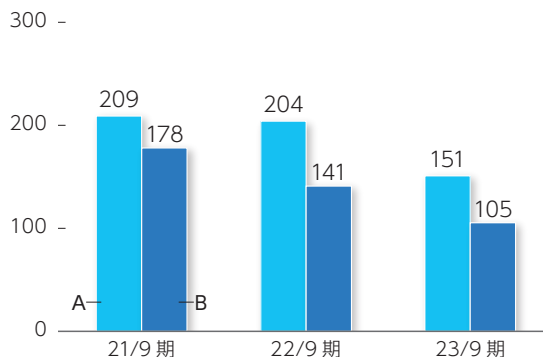


経費は、新システム移行関連費用が増加したことなどを主因として、前年同期比+20億円の282億円となり、それに伴い経費率 (OHR) も 8.87%ポイント上昇して65.02%となりました。

## 実質業務純益・コア業務純益

A 実質業務純益 B コア業務純益

(億円)

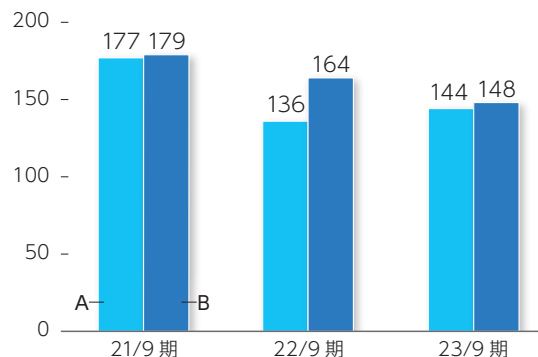


実質業務純益は、業務粗利益の減少と経費の増加により、前年同期比△52億円の151億円となり、国債等債券損益を控除した後のコア業務純益は、同比△36億円の105億円となりました。

## 経常利益・中間純利益

A 経常利益 B 中間純利益

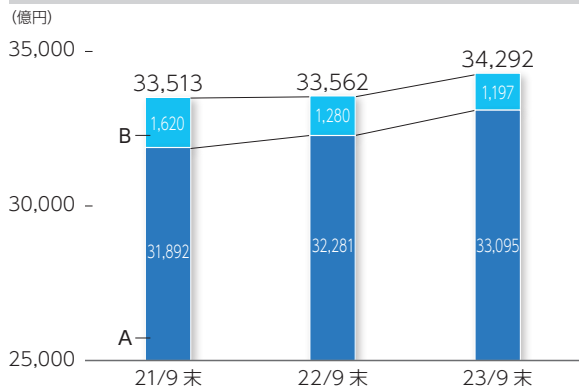
(億円)



経常利益は、与信関係費用が前年同期比△27億円の2億円にとどまったこと等から、同比+7億円の144億円、中間純利益は同比△16億円の148億円となりました。

### 貸出金残高

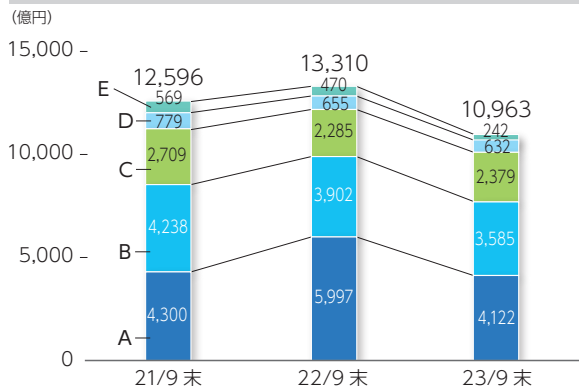
A 正常債権 B リスク管理債権



貸出金残高は、法人貸出を中心に正常債権が大幅に増加したことを主因として、22/9末比+730億円の3兆4,292億円となりました。

### 有価証券残高

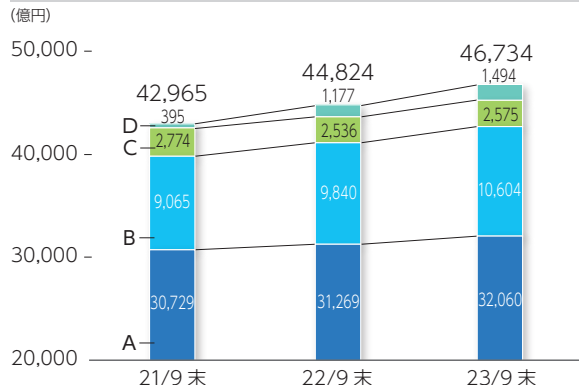
A 国債 B 地方債 C 社債 D 株式 E その他の証券



有価証券残高は、金利動向を踏まえた債券売却等により、22/9末比△2,347億円の1兆963億円となりました。主な内訳は国債が4,122億円(同比△1,875億円)、地方債が3,585億円(同比△137億円)、社債が2,379億円(同比+94億円)となりました。

### 預金等残高

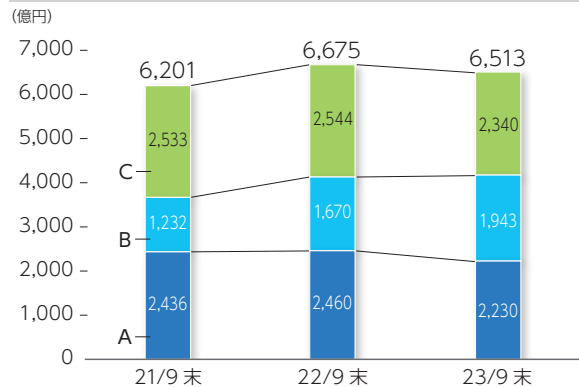
A 個人 B 法人 C 公金+金融 D 譲渡性預金



預金等残高は、個人預金、法人預金、譲渡性預金とともにそれぞれ堅調に増加したことから、22/9末比+1,910億円の4兆6,734億円となりました。

### 預り資産残高

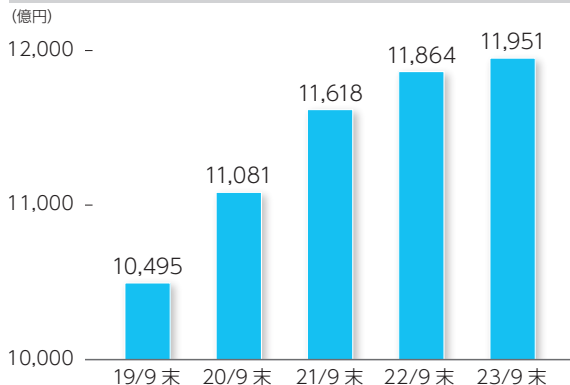
A 投資信託 B 生命保険 C 債券



金融市場の環境悪化による投資信託の基準価額の下落、個人向け国債の大量償還等により、預り資産残高全体では、22/9末比△161億円の6,513億円となりました。

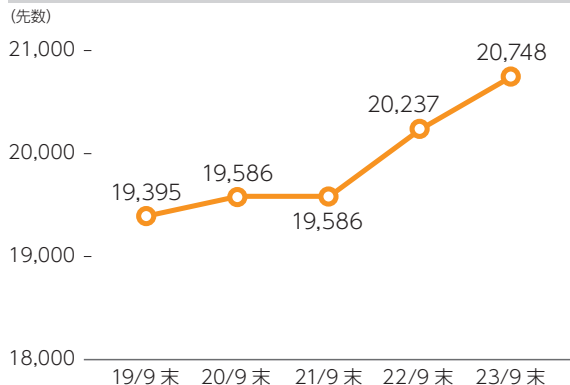
# 主要な計数指標／自己資本比率

## 住宅ローン残高



住宅ローン残高は、22/9末比+87億円の1兆1,951億円となりました。お借換えニーズへの対応も積極的に行うとともに、震災により住宅に被害を受けたお客さまを支援する取扱いを継続いたしました。

## 法人融資先数 (正常先～要管理先)

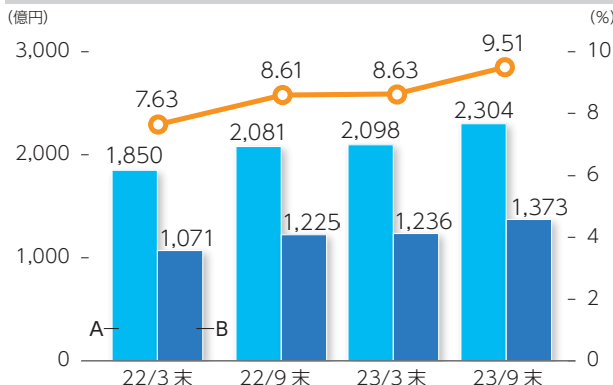


法人融資先数 (要管理先以上) は、的確な資金ニーズへの対応につとめ、22/9末比+511先の20,748先となりました。

## 自己資本比率の推移

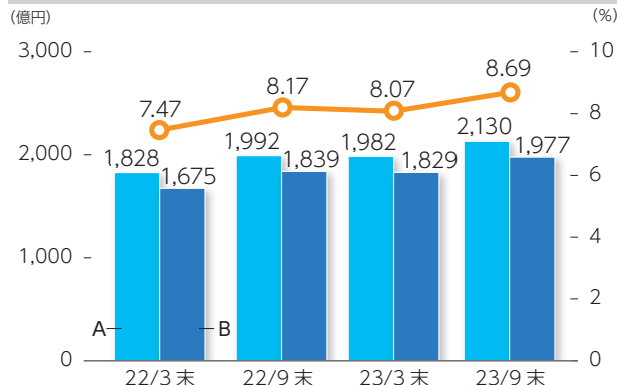
### 足利ホールディングス連結

A 自己資本額 B Tier1 C 自己資本比率



### 足利銀行単体

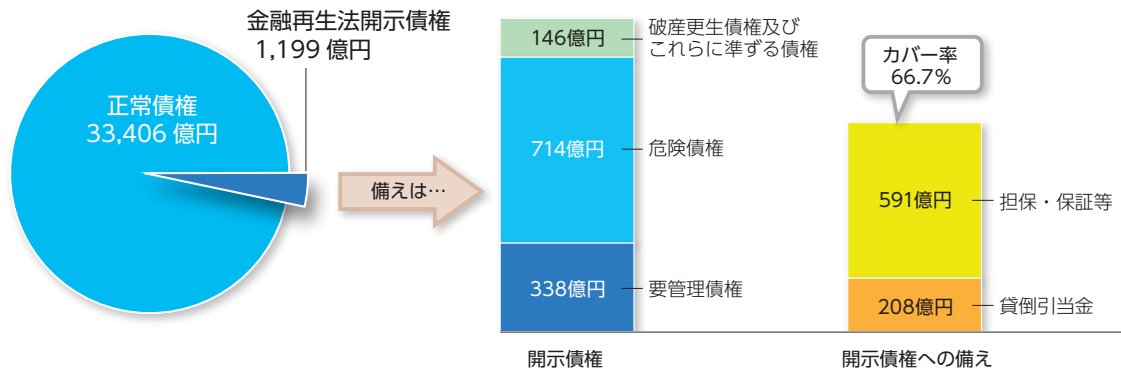
A 自己資本額 B Tier1 C 自己資本比率



自己資本比率は、利益の着実な積み上げ等により、足利ホールディングス連結は9.51% (23/3末比+0.88%)、足利銀行単体は8.69% (同比+0.62%) に、それぞれ上昇いたしました。

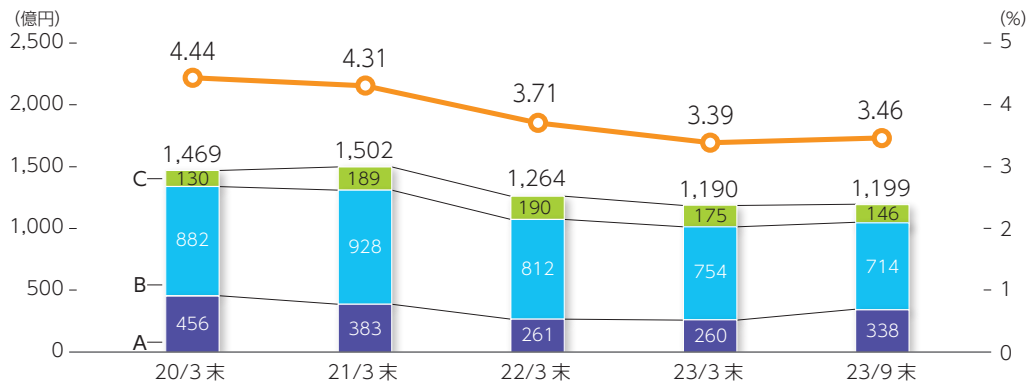
# 金融再生法に基づく開示債権の状況

## 金融再生法開示債権 (23/9末)



## 金融再生法開示債権の推移

A 要管理債権 B 危険債権 C 破産更生債権等 ○ 開示債権比率



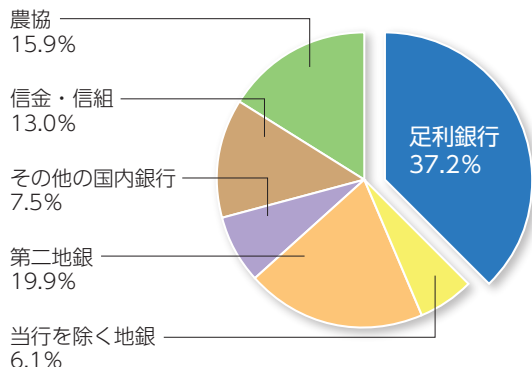
平成23年9月末は、震災や円高等による厳しい経済情勢がお取引先の業績にも影響し、返済条件の変更等に伴うランクダウンにより要管理債権が増加したことから、23/3末比+9億円の1,199億円となりました。

今後とも、実質破綻先・破綻先債権の原則オフバランス化を進めるとともに、お取引先の経営改善に向けたサポート活動等を通じて、貸出資産の健全化に取り組んでまいります。

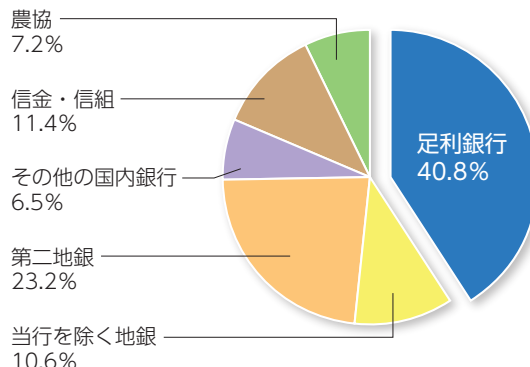
# 地域密着型金融への取組み

## 栃木県内シェア

預金 (23年3月)



貸出金 (23年3月)



※本計数の対象金融機関は、国内銀行、信用金庫、信用組合、農協です。(当行調べ)

### 貸出金残高、地域向け貸出金残高・比率

(億円、%)

	21/9期	22/9期	23/9期
貸出金残高	33,513	33,562	34,292
地域向け貸出金残高	29,487	29,282	29,346
地域向け貸出金比率	87.9	87.2	85.5

### 中小企業等向け貸出金残高・比率、地域の中小企業等向け貸出金残高・比率

(億円、%)

	21/9期	22/9期	23/9期
中小企業等向け貸出金残高	25,516	25,497	25,434
中小企業等向け貸出金比率	76.1	75.9	74.1
地域の中小企業等向け貸出金残高	24,622	24,523	24,324
地域向け貸出金に対する地域の中小企業等向け貸出金比率	83.5	83.7	82.8

### 預金残高、地域の預金残高・比率

(億円、%)

	21/9期	22/9期	23/9期
預金残高	42,569	43,646	45,240
地域の預金残高	42,160	43,214	44,880
地域の預金残高比率	99.0	99.0	99.2

### 預り資産残高、地域の預り資産残高・比率

(億円、%)

	21/9期	22/9期	23/9期
預り資産残高	6,201	6,675	6,513
地域の預り資産残高	6,191	6,665	6,505
地域の預り資産残高比率	99.8	99.8	99.8

※当行における「地域」とは、北関東を中心とした主要な営業地盤（栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県）をさしております。



## 平成23年上期（4月～9月）における地域密着型金融の取組み実績

### 取引先企業に対するコンサルティング機能の発揮

#### ライフステージ等に応じた取引先企業の支援

##### 創業・新事業支援

創業・新事業支援に関する融資実行	53件	236百万円
------------------	-----	--------

##### 経営改善支援・事業再生

経営改善計画の策定完了	110先
中小企業再生支援協議会の活用先数	12先
DDS	2先

##### 事業承継

後継者への自社株式移転等の事業承継に関する相談対応	71件
M&Aに関する相談対応	30件

- 23年7月、後継者育成をサポートするセミナーとして「第13回ニューリーダー養成道場」（主催：株式会社あしぎん総合研究所）を開催。

#### ビジネスマッチング

##### 情報営業の展開

##### 【復興支援プロジェクトチーム】

- 23年4月、法人部（現：営業推進部）内に復興支援プロジェクトチームを立ち上げ、地域およびお取引先の被災状況の把握する取組みを実施。
- 被害の大きかった栃木県東部の工業団地内の企業や地元大手企業を中心に92社を訪問。
- ヒアリングにより把握した企業ニーズに対し、44件のマッチングを実施。

##### ビジネスマッチング機会の提供

- 23年7月、栃木県内の高速道路サービスエリア（SA）・パーキングエリア（PA）を管轄するネクセリア東日本株式会社と連携し、県内SA・PAのレストラン・売店運営会社と県内食品関係企業を対象を絞ったミニ商談会を開催。
- 10月、地元製造業の販路拡大支援を目的として、「ものづくり企業展示・商談会」を栃木県内信用金庫・信用組合と共同で開催（出展企業131社）。
- 11月、当行を含む地方銀行37行合同により、「食」の展示商談会である「地方銀行 フードセレクション2011」を開催（当行からの出展企業27社）。



ニューリーダー養成道場



ネクセリア東日本



ものづくり企業展示・商談会



地方銀行 フードセレクション2011

## 地域密着型金融への取組み

- 24年1月、食と農に関するビジネスマッチング支援の取組みとして、「とちぎ食の展示・商談会 2012」を栃木県との共同により開催する予定。

### 事業価値を見極める融資手法の活用

当行がアレンジャー兼エージェントを務めるシンジケートローン	6件	(総額711億円)
私募債引受	32件	(総額 33億円)

- 23年8月、「あしぎん成長盤支援私募債」と「あしぎん環境配慮型私募債」の取扱開始。

### 海外ビジネスサポート体制の強化

- 23年9月、当行を含む地方銀行および自治体など34 団体が共催し、NCネットワークチャイナの主催により、「日中ものづくり商談会@上海2011」を開催（当行からの参加企業7社）。
- 9月、タイ王国のカシコン銀行と「業務協力に関する覚書」を締結。



日中ものづくり商談会@上海2011

### 地域の面的再生への積極的な参画

#### 「地域経済活性化研究会」について

栃木県・野村グループ・当行の三者で「地域経済活性化研究会」を立ち上げ、「食と農」「観光」をテーマとして施策を検討。

- 23年7月、「植物工場」への取組みを検討している事業者の方を対象とした「植物工場」セミナーを開催（参加企業33社）。
- 8月、栃木県・当行・県内金融機関により「とちぎ観光リーダー育成塾運営協議会」を設立。
- 10月、同協議会の運営により「とちぎ観光リーダー育成塾」を開講し48名が参加。



「植物工場」セミナー

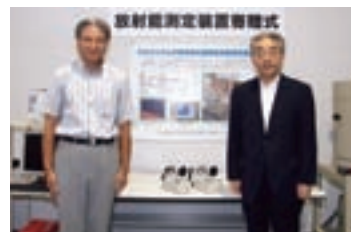
### 震災復興支援

#### 【放射線測定装置の寄贈】

23年8月、(ゲルマニウム半導体検出器装置1セット、サーベイメータ7台：総額約200万円相当)を栃木県に寄贈。

#### 【観光支援】

- 23年5月、ゴールデンウィーク期間中の県内有料道路無料化事業への支援（200万円相当）。
- 6月、鬼怒川・川治温泉観光協会主催による在日諸外国大使館員等の日光・鬼怒川への視察旅行に対する協賛（100万円）。
- 7月、観光復興をPRするための「げんき栃木！夏の観光キャンペーン」への支援（90万円）。



「放射線測定装置」の寄贈



「視察旅行」

## 産学連携活動

- 宇都宮大学地域共生研究開発センターのコーディネータに当行行員（現在7名）が任命され、取引先企業における技術開発などのニーズと同大学の研究（シーズ）をつなぐ情報の交換や案件を紹介。
- 23年9月、「宇都宮大学企業交流会」に参加し、ビジネスマッチング等の相談に対応。

地域や利用者に対する積極的な情報発信

## シンクタンク「株式会社あしぎん総合研究所」による情報機能

調査結果等の公表

13回

月次および四半期の景気観測調査に加え、「東日本大震災の影響調査」「節電の影響調査」などタイムリーな調査を実施。

- 中小企業の課題解決に向けたコンサルティング業務
- 人材育成のための研修やセミナー、外部講師を招いた実務セミナーの開催。

## 地元テレビ局の「データ放送」へのコンテンツ掲出

23年4月より、地元テレビ局である株式会社とちぎテレビのデータ放送「あなたの街のデータ放送」に、当行のコンテンツを掲出。

## 中小企業金融円滑化法施行への対応

足利銀行は、21年12月4日の中小企業金融円滑化法の施行にともない、お客さまへの円滑な資金供給を重要な経営課題の一つと位置づけ、金融円滑化に関するお客さまからの各種ご相談に、きめ細かく、かつ、迅速・的確にお応えするよう、積極的に取り組んでおります。

### 〈基本方針（抜粋）〉

「お客さまからのお借入条件の変更等のお申込みに対しては、お客さまのご要望を真摯にお伺いし、できる限り、ご返済負担の軽減に資する措置をとるようつとめてまいります。」

### 〈ご返済条件の変更等に関するご相談窓口〉

#### 【苦情相談窓口】

フリーダイヤル 0120-550-760

受付時間 平日 9:00～17:00（銀行の休業日を除きます）

#### 【ご返済条件の変更等をご希望のお客さまのご連絡先】

お取引店の担当者までご連絡ください。

## 金融ADR制度施行への対応

金融ADR制度（Alternative Dispute Resolution）とは、訴訟に代わる、あっせん・調停・仲裁等の当事者の合意に基づく紛争の解決方法であり、事案の性質や当事者の事情等に応じた迅速・簡便・柔軟な紛争解決を行うものです。

足利銀行では、指定紛争解決機関である「一般社団法人全国銀行協会」と手続実施基本契約を締結しており、「全国銀行協会相談室」の存在や役割について、お客さまへの周知につとめるとともに、お客さまのご要望に応じて、当行の「お客さま相談室」、「全国銀行協会相談室」や他の外部機関等を紹介するなど、適切な対応に取り組んでおります。

### 個人のお客さまへ



#### 資産運用相談窓口

##### ○スマイルデスク

お客さまの資産運用ニーズにお応えするため、金融商品販売店舗に相談ブースを設置し、専門のスタッフが資産づくりのアドバイスを行っております。そのブースを「スマイルデスク」、専門のスタッフを「CA（カスタマーアドバイザー）」の愛称で呼んでおります。お客さまを笑顔でお迎えし、資産運用等の幅広い相談に、親切・丁寧に対応するという思いから“スマイルデスク”と名付けました。

#### ローン専用相談窓口

##### ○ローンセンター

お客さまにいつでも安心して気軽にご来店いただき、ゆっくりとご相談いただけるように、22か所のローンセンターを設置しております。ローンセンターでは、住宅ローンをはじめ、マイカーローン、教育ローンなど、お客さまの暮らしのお役に立つ商品を取り扱っており、ローン専門のスタッフが各種ローン商品の説明を行い、資金計画・返済計画等のご相談をお受けしております。

#### お客さまの利便性向上への取組み

##### ○ダイレクトブランチ (インターネットバンキング・モバイルバンキング)

パソコンや携帯電話でお取引内容の照会、お振込・お振替、定期預金・投資信託のお取引、税金・各種料金の払込み等を24時間ご利用いただける「インターネットバンキング・モバイルバンキング」サービスを取り扱っております。

また、セキュリティソフトの無料提供やワンタイムパスワードの利用促進等により、不正利用防止対策に取り組んでおります。

##### ○セブン銀行ATM・イーネットATM

セブン銀行ATM・イーネットATMと提携しており、23年9月末現在でセブン銀行ATM14,598か所（内栃木県内383か所）、イーネットATM11,191か所（内栃木県内178か所）で、ご利用いただくことができます。21年2月からより便利にご利用いただくために、平日の日中時間帯（8時45分～18時）のセブン銀行ATM・イーネットATMのご利用手数料を無料化いたしました。



## 法人のお客さまへ

### ソリューションビジネス

お客さまの金融ニーズに「積極的かつスピーディ」にお応えするとともに、非金融サービスである営業情報やコンサルティング等のサービスを提供し、お客さまの営業活動をサポートしております。

#### ○ 営業情報の提供

行内に「オーガニック（有機的に結合した）情報営業体制」を展開し、お客さまの事業にとって有益な営業情報をタイムリーに提供しております。北関東エリアを中心とした営業ネットワークを最大限に活用し、お客さまのニーズにお応えすると

ともに、お客さま自身で経営情報の取得や営業情報の発信を行うことができる会員制ビジネスサイト「あしぎんinformationBOX」による情報提供も行っております。

- 事業継承支援
- M&A業務
- 確定拠出年金業務
- シンジケートローン組成業務
- 社債発行支援 他

### 海外支援と国際業務

本部の専門スタッフが貿易や海外直接投資に関するご相談を随時お受けする「アジア・中国デスク」を設置しております。また、各種セミナーの開催による海外最新情報の提供や外部専門機関との連携による個別支援等により、地元企業の皆さまの国際化をサポートする体制を整えております。

### EB・インターネットサービス

インターネット、パソコン、FAX等によりお振込手続き、お取引口座の入出金・残高照会がご利用いただけるサービスです。

代金回収やコンビニ収納サービスなど多彩なサービスのラインナップにより、経理事務の合理化・効率化のサポートを行っております。

法人インターネットバンキングにおきましては、セキュリティソフトの無料提供や電子証明書による認証機能の利用促進等により、不正利用防止対策に取り組んでおります。

### あしぎんビジネスセンター

各営業店との連携をはかりながら、中小企業や個人事業主のお客さまへニーズに合わせた商品をご案内するとともに、ご融資をはじめとする事業に関するさまざまにご相談を電話やFAXでお受けしております。



アジア・中国デスク



ビジネスセンター



# CSR(企業の社会的責任)への取組み

## 金融教育の推進

### キッズスクール

23年8月、地域の小学生を対象とした『あしぎんキッズスクール「お金の体験学習」』を本店にて開催し、25組58名の親子に参加していただきました。



キッズスクール

### 大学への講座提供

23年10月より、宇都宮大学において「一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”」という単位数2単位の講座を提供しております。



講座風景

## 環境問題への取組み

### 足尾の山への植樹活動

23年7月、NPO法人「足尾に緑を育てる会」の協力のもと、新入行員144名と栃木県産業協議会の会員企業の新入社員21名が足尾の山に約340本の苗木の植樹を行いました。



足尾の山植樹

### 日光杉並木

世界に誇る日光杉並木を守るため栃木県が行っている「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、平成8年よりオーナーとなっております。その後の継続的な購入により、一団体としては最多の68本(1本1,000万円)の杉を保有しております。23年11月、新たに購入した5本の杉に対し、栃木県知事より、藤澤頭取にオーナー証書が授与されました。



証書授与式

### 環境配慮型私募債の取扱い

23年8月、環境に配慮した取組みを行う企業をサポートするために、当行の定める機関からの認定・認証等を取得している企業を対象とした「あしぎん環境配慮型私募債」の取扱いを開始いたしました。

### 「チャレンジ25キャンペーン」への参加

政府が推進している1990年比温室効果ガス排出量25%削減のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止につとめております。

## 健康・福祉への貢献

### 認知症サポーターの全店配置

高齢化社会の進展にともない、認知症への理解を深めるとともに、地域金融機関として、「認知症サポーター」の養成に取り組み、23年9月末の同サポーター数は625名となり、全営業店に同サポーターを配置しております。

### 音声案内ハンドセット(受話器)付ATMの増設

目の不自由な方に対応した音声案内ハンドセット(受話器)付ATMの増設を進めており、23年9月末までに104か所167台に設置いたしました。

## 文化・スポーツ振興

### あしぎんマロニエ 県庁コンサート

23年4月より、栃木県が開催する音楽コンサートのネーミングライツパートナーとなり、「あしぎんマロニエ県庁コンサート」として、県民の文化活動の発表の場や文化に親しむ機会の提供に協力しております。



あしぎんマロニエ県庁コンサート

### とちぎスポーツクラブ 「応援金サービス」の開始

23年10月より、栃木県内のプロスポーツクラブを地元の皆さまと一緒に支援していく仕組みづくりとして、栃木県内の信用金庫・信用組合と共同でインターネット・ポータルサイト〈とちぎスポーツクラブ「応援金サービス」〉を構築し取扱いを開始いたしました。



「応援金サービス」サイト

## 財団法人あしぎん国際交流財団

当行が昭和60年に創立したあしぎん国際交流財団では、栃木県を中心とする地域に学ぶ海外からの私費留学生や地域の国際交流団体への助成を行っております。22年度まで助成実績は延べ284先の1億844万円となりました。



助成先と財団役員

## 栃木県産業協議会

昭和56年、栃木県内の有力企業経営者の経済団体として設立され、当行は事務局の役割を果たすなど、積極的に支援しております。23年7月20日・21日には、栃木県産業協議会創立30周年記念「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート」（主催：栃木県産業協議会、後援：栃木県、宇都宮市、足利銀行、下野新聞社）を行い、多くの方々にご来場いただきました。



チャリティーコンサート

## 東日本大震災復興支援

「あしぎんサマーキャンペーン（6月1日から8月19日まで実施）」において、お客さまにお預入いただいた円定期預金の金額0.01%相当額を東日本大震災復興支援として日本赤十字社栃木支部へ寄付しました。



義援金の寄付

## 「マルニ」の行章（バッジ）の復活

「丸に二つ引両（マルニ）」をデザインとする行章（バッジ）を11月28日に復活いたしました。あしぎんグループの男性職員ならびに女性の役職者（非制服着用者）に貸与のうえ、着用を開始いたしました。

【マルニの意味】創業の地「足利」にちなみ、地域のお客さまと足利銀行が円満に和合し、互いに発展していく姿を表しています。



「マルニ」の行章（バッジ）

# 連結財務諸表 (足利ホールディングス)

## 中間連結貸借対照表 (平成23年9月30日現在)

(単位: 百万円)	
科目	金額
<b>資産の部</b>	
現金預け金	217,928
コールローン及び買入手形	184,061
買入金銭債権	8,541
商品有価証券	3,778
有価証券	1,067,372
貸出金	3,430,717
外国為替	5,130
その他資産	25,253
有形固定資産	25,455
無形固定資産	111,984
繰延税金資産	9,997
支払承諾見返	18,348
貸倒引当金	△ 48,534
<b>資産の部合計</b>	<b>5,060,033</b>
<b>負債の部</b>	
預金	4,493,442
譲渡性預金	119,429
借入金	120,175
外国為替	552
その他負債	46,945
役員賞与引当金	21
退職給付引当金	15,827
役員退職慰労引当金	195
睡眠預金払戻損失引当金	1,303
偶発損失引当金	221
ポイント引当金	64
災害損失引当金	350
支払承諾	18,348
<b>負債の部合計</b>	<b>4,816,879</b>
<b>純資産の部</b>	
資本金	105,010
資本剰余金	95,780
利益剰余金	40,437
株主資本合計	241,227
その他有価証券評価差額金	1,926
その他の包括利益累計額合計	1,926
<b>純資産の部合計</b>	<b>243,154</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>5,060,033</b>

### 資産の部

お客さまへのご融資である「貸出金」、債券や株式等の「有価証券」など、主に資金の運用状況を表します。

### 負債の部

お客さまからお預りしている「預金」、「譲渡性預金」、「借入金」など、主に資金の調達状況を表します。

### 純資産の部

株主の皆さまからのご出資金である「資本金」や今までの利益の蓄積である「利益剰余金」などの総額です。

## 中間連結損益計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

(単位: 百万円)	
科目	金額
<b>経常収益</b>	<b>52,041</b>
資金運用収益	37,242
(うち貸出金利息)	(31,684)
(うち有価証券利息配当金)	(5,240)
役員取引等収益	8,670
その他業務収益	5,160
その他経常収益	967
<b>経常費用</b>	<b>41,533</b>
資金調達費用	3,960
(うち預金利息)	(2,096)
役員取引等費用	2,889
その他業務費用	26
営業経費	32,331
その他経常費用	2,326
<b>経常利益</b>	<b>10,507</b>
<b>特別損失</b>	<b>41</b>
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>10,466</b>
法人税、住民税及び事業税	305
法人税等調整額	△ 451
法人税等合計	△ 146
<b>少数株主損益調整前中間純利益</b>	<b>10,612</b>
<b>中間純利益</b>	<b>10,612</b>

### 経常収益、経常費用

「経常収益」は、貸出金利息や各種手数料等の収益で、「経常費用」は預金利息や営業経費等の費用を表します。

### 経常利益

経常収益から経常費用を差し引いた利益のことです。

### 中間純利益

経常利益から税金等を差し引いた最終的な利益のことです。



中間連結株主資本等変動計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
<b>株主資本</b>	
資本金	
当期首残高	105,010
当中間期変動額	—
当中間期変動額合計	—
当中間期末残高	105,010
資本剰余金	
当期首残高	95,780
当中間期変動額	—
当中間期変動額合計	—
当中間期末残高	95,780
利益剰余金	
当期首残高	35,494
当中間期変動額	
剰余金の配当	△ 5,670
中間純利益	10,612
当中間期変動額合計	4,942
当中間期末残高	40,437
<b>株主資本合計</b>	
当期首残高	236,285
当中間期変動額	
剰余金の配当	△ 5,670
中間純利益	10,612
当中間期変動額合計	4,942
当中間期末残高	241,227
<b>その他の包括利益累計額</b>	
その他有価証券評価差額金	
当期首残高	2,958
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△ 1,031
当中間期変動額合計	△ 1,031
当中間期末残高	1,926
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	
当期首残高	2,958
当中間期変動額	
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△ 1,031
当中間期変動額合計	△ 1,031
当中間期末残高	1,926
<b>純資産合計</b>	
当期首残高	239,243
当中間期変動額	
剰余金の配当	△ 5,670
中間純利益	10,612
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△ 1,031
当中間期変動額合計	3,910
当中間期末残高	243,154

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前中間純利益	10,466
減価償却費	2,649
減損損失	8
のれん償却額	3,101
貸倒引当金の増減 (△)	△ 6,562
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 49
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	217
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	21
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)	△ 46
偶発損失引当金の増減 (△)	△ 64
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△ 0
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	△ 168
資金運用収益	△ 37,242
資金調達費用	3,960
有価証券関係損益 (△)	△ 3,414
為替差損益 (△は益)	334
固定資産処分損益 (△は益)	32
貸出金の純増 (△) 減	43,911
預金の純増減 (△)	11,925
譲渡性預金の純増減 (△)	12,310
借入金 (劣後特約借入金を除く)の純増減 (△)	△ 169,061
預け金 (日銀預け金を除く)の純増 (△) 減	194
コールローン等の純増 (△) 減	△ 53,501
商品有価証券の純増 (△) 減	△ 236
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	△ 19,700
外国為替 (資産)の純増 (△) 減	1,093
外国為替 (負債)の純増減 (△)	89
資金運用による収入	36,578
資金調達による支出	△ 2,865
その他	3,869
小計	△ 162,147
法人税等の支払額	△ 458
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 162,605
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有価証券の取得による支出	△ 237,111
有価証券の売却による収入	180,726
有価証券の償還による収入	327,267
有形固定資産の取得による支出	△ 471
有形固定資産の売却による収入	△ 9
無形固定資産の取得による支出	△ 3,640
その他	△ 10
投資活動によるキャッシュ・フロー	266,751
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	△ 5,670
リース債務の返済による支出	△ 4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,674
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	△ 23
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	98,447
現金及び現金同等物の期首残高	110,390
現金及び現金同等物の中間期末残高	208,837

# 連結財務諸表 (足利銀行)

## 中間連結貸借対照表 (平成23年9月30日現在)

科 目		科 目	
金 額	金 額	金 額	金 額
<b>資 産 の 部</b>		<b>負 債 の 部</b>	
現金預け金	217,928	預金	4,505,773
コールローン及び買入手形	184,061	譲渡性預金	119,429
買入金銭債権	8,541	借入金	40,175
商品有価証券	3,778	外国為替	552
有価証券	1,067,372	その他負債	46,050
貸出金	3,430,717	役員賞与引当金	12
外国為替	5,130	退職給付引当金	15,827
その他資産	23,242	役員退職慰労引当金	119
有形固定資産	25,862	睡眠預金払戻損失引当金	1,303
無形固定資産	8,093	偶発損失引当金	221
繰延税金資産	11,011	ポイント引当金	64
支払承諾見返	18,348	災害損失引当金	350
貸倒引当金	△ 48,534	支払承諾	18,348
		<b>負債の部合計</b>	<b>4,748,231</b>
		<b>純 資 産 の 部</b>	
		資本金	135,000
		利益剰余金	65,667
		株主資本合計	200,667
		その他有価証券評価差額金	6,654
		その他の包括利益累計額合計	6,654
		<b>純資産の部合計</b>	<b>207,321</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>4,955,552</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>4,955,552</b>

## 中間連結損益計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

科 目		金 額
<b>経常収益</b>		<b>51,864</b>
資金運用収益	37,137	
(うち貸出金利息)	(31,684)	
(うち有価証券利息配当金)	(5,135)	
役員取引等収益	8,685	
その他業務収益	5,137	
その他経常収益	904	
<b>経常費用</b>		<b>36,583</b>
資金調達費用	2,284	
(うち預金利息)	(2,097)	
役員取引等費用	2,889	
その他業務費用	26	
営業経費	29,312	
その他経常費用	2,071	
<b>経常利益</b>	<b>15,280</b>	
<b>特別損失</b>	<b>41</b>	
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>15,239</b>	
法人税、住民税及び事業税	303	
法人税等調整額	△ 466	
法人税等合計	△ 163	
<b>少数株主損益調整前中間純利益</b>	<b>15,403</b>	
<b>中間純利益</b>	<b>15,403</b>	

## 中間連結株主資本等変動計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

科 目		金 額	科 目		金 額
<b>株主資本</b>			<b>株主資本合計</b>		
資本金			当期首残高	195,317	
当期首残高	135,000		当中間期変動額		
当中間期変動額			剰余金の配当	△ 10,053	
当中間期変動額合計	—		中間純利益	15,403	
当中間期末残高	135,000		当中間期変動額合計	5,349	
利益剰余金			当中間期末残高	200,667	
当期首残高	60,317		<b>その他の包括利益累計額</b>		
当中間期変動額			その他有価証券評価差額金		
剰余金の配当	△ 10,053		当期首残高	7,851	
中間純利益	15,403		当中間期変動額		
当中間期変動額合計	5,349		株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△ 1,196	
当中間期末残高	65,667		当中間期変動額合計	△ 1,196	
			当中間期末残高	6,654	
			<b>純資産合計</b>		
			当期首残高	203,169	
			当中間期変動額		
			剰余金の配当	△ 10,053	
			中間純利益	15,403	
			株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△ 1,196	
			当中間期変動額合計	4,152	
			当中間期末残高	207,321	

# 単体財務諸表 (足利銀行)

## 中間貸借対照表 (平成23年9月30日現在)

科 目		科 目	
金 額	金 額	金 額	金 額
<b>資 産 の 部</b>		<b>負 債 の 部</b>	
現金預け金	217,926	預金	4,524,062
コールローン	184,061	譲渡性預金	149,429
買入金銭債権	8,541	借入金	40,175
商品有価証券	3,778	外国為替	552
有価証券	1,096,349	その他負債	31,699
貸出金	3,429,272	未払法人税等	231
外国為替	5,130	リース債務	18
その他資産	20,882	資産除去債務	456
有形固定資産	26,650	その他の負債	30,993
無形固定資産	8,069	役員賞与引当金	12
繰延税金資産	10,659	退職給付引当金	15,164
支払承諾見返	18,348	役員退職慰労引当金	119
貸倒引当金	△ 43,824	睡眠預金払戻損失引当金	1,303
		偶発損失引当金	221
		ポイント引当金	23
		災害損失引当金	350
		支払承諾	18,348
		<b>負債の部合計</b>	<b>4,781,465</b>
		<b>純 資 産 の 部</b>	
		資本金	135,000
		利益剰余金	62,741
		利益準備金	6,434
		その他利益剰余金	56,306
		繰越利益剰余金	56,306
		株主資本合計	197,741
		その他有価証券評価差額金	6,639
		評価・換算差額等合計	6,639
		<b>純資産の部合計</b>	<b>204,380</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>4,985,846</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>4,985,846</b>

## 中間損益計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

科 目		科 目	
金 額	金 額	金 額	金 額
<b>経常収益</b>		<b>50,300</b>	
資金運用収益	35,602		
(うち貸出金利息)	(30,155)		
(うち有価証券利息配当金)	(5,132)		
役員取引等収益	7,957		
その他業務収益	5,044		
その他経常収益	1,694		
<b>経常費用</b>		<b>35,877</b>	
資金調達費用	2,287		
(うち預金利息)	(2,103)		
役員取引等費用	2,922		
営業経費	28,646		
その他経常費用	2,021		
<b>経常利益</b>	<b>14,422</b>		
<b>特別損失</b>	<b>41</b>		
<b>税引前中間純利益</b>	<b>14,381</b>		
法人税、住民税及び事業税	42		
法人税等調整額	△ 464		
法人税等合計	△ 422		
<b>中間純利益</b>	<b>14,804</b>		

## 中間株主資本等変動計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

科 目		科 目		科 目		科 目	
金 額	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
<b>株主資本</b>		<b>その他利益剰余金</b>		<b>株主資本合計</b>		<b>評価・換算差額等合計</b>	
資本金		繰越利益剰余金		当期首残高	192,990	当期首残高	7,837
当期首残高	135,000	当期首残高	53,567	当中間期変動額		当中間期変動額	
当中間期変動額		当中間期変動額		剰余金の配当	△ 10,053	株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△ 1,197
当中間期変動額合計	—	剰余金の配当	△ 12,064	中間純利益	14,804	当中間期変動額合計	△ 1,197
当中間期末残高	135,000	中間純利益	14,804	当中間期変動額合計	4,750	当中間期末残高	6,639
		当中間期変動額合計	2,739	当中間期末残高	197,741	<b>純資産合計</b>	
		<b>当中間期末残高</b>	<b>56,306</b>	<b>評価・換算差額等</b>		当期首残高	200,828
<b>利益剰余金</b>		<b>利益剰余金合計</b>		その他有価証券評価差額金		当中間期変動額	
利益準備金		当期首残高	57,990	当期首残高	7,837	剰余金の配当	△ 10,053
当期首残高	4,423	当中間期変動額		当中間期変動額		中間純利益	14,804
当中間期変動額		剰余金の配当	△ 10,053	株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△ 1,197	当中間期変動額合計	△ 1,197
剰余金の配当	2,010	中間純利益	14,804	当中間期変動額合計	△ 1,197	当中間期末残高	204,380
当中間期変動額合計	2,010	当中間期変動額合計	4,750	当中間期末残高	6,639		
当中間期末残高	6,434	<b>当中間期末残高</b>	<b>62,741</b>				

# 営業所のご案内 (足利銀行)

営業所の状況 (23年9月末現在)

	営業所数	店外ATM	ローンセンター
栃木県	107店 (うち出張所41)	148	15
群馬県	14店 ( )	9	5
茨城県	8店 ( )	2	1
埼玉県	16店 ( )	1	1
東京都	1店 ( )	-	-
福島県	1店 ( )	1	-
合計	147店 ( )	161	22

※提携コンビニATM (セブン銀行ATM・イーネットATM)  
全国25,789か所 (23年9月末現在)

(出) ……出張所  
(リ) ……リテールセンター  
(ア) ……あしぎんプラザ  
(ロ) ……ローンセンター



発行/平成23年12月  
足利ホールディングス経営企画部  
〒320-8610 栃木県宇都宮市桜4-1-25  
TEL028-622-8411 (代表)  
<http://www.ashikaga-hd.co.jp>

足利銀行広報室  
〒320-8610 栃木県宇都宮市桜4-1-25  
TEL028-622-0111 (代表)  
<http://www.ashikagabank.co.jp>



足利銀行はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。